

# 広報 かがわ

第90号

編集発行

香川自治会  
広報委員会  
興版印刷所

香川の人口	9,518人
男	4,789人
女	4,729人
香川の世帯数	2,822
(61.1.21現在)	

## 謹賀新年



小後鶏の

聲あつたよの

いずり

自治会長 熊沢幸一

広報委員 住吉撮影

### 温もりの

#### ある町

第四町内会長  
石井 栄

私達が旅の途中ある夕暮の町に到着したとします。そんな時、おや、この町には何か優しい温もりがあるな、などと瞬間的に感じる時があるものです。でも、それはどこから伝わって来るのかわからない。もしかしたら、それは町の背景に立つ山の緑だったり、夕陽の柔かな日差だったり、落ち着いた黒瓦の家並だったりするところもあるでしょう。

しかし、その本当の源泉は道で出合ったお年寄りの穏やかな笑顔と道端で遊ぶ子供達の優しい眼差しだったと思うのです。その町が豊かで物が溢れ、町が豪華に色取られ飾られていたとしても人の心の優しさがなければ決して伝わって来るはずがありません。つまり「住み良い町」窮極は「温もりのある町」だと思います。地域社会の一員として、さ、やかながら心したいと思えます。

道路舗装の一層の拡充要請、雨水汚水処理対策、お年寄りの憩いの場作り、緑地公園、公民館設立等、もちろん、この問題は、行政や地域の住民の皆様のご協力を頂きながら着実に一つ一つ解決していかなくてはなりません。際限なく生み出される問題の処理に追われながらも基本である「心」を見失わず「住み良い町」づくりも忘れない様にし

たいものです。

しかし温もりという形のなにもを町に育てていくのはどうしたら良いのでしょうか、ただここで言えますことは、昔読んだ本の受け売になります。昔人間がある目的を達成するためには、先ず、やって見ようと決意することだということです。至極当然ですが、その本は更に加えて「決意した時は目的達成の一步を踏み出した時と同じだ」というようなことも書いてありました。事実はそんなに簡単なものではないと思いますが何かを成し遂げるための第一歩は、先ずやって見ようと「決意」することだというのは間違っていないと思うのです。

行政や地域社会の人が一体

### !! 賀詞交換会に

#### 出席して!!

広報委員長 齊藤

元旦、香川鎮守の森、諏訪神社での元旦祭を終り、十一月より、自治会館で例年行われる、賀詞交換会に出席いたしました。

熊澤会長より、本年は特に会員各位の意見や、要求を十分吸収したうえで、街の環境整備や文化厚生活動に積極的に取り組むことであることである。なお、下排水の不完全な処の処置、学校プールの問題点、公民館の誘致の話が出

て、特に、家庭訪問販売については、問題が生じ易い、注意するようとのことであった。香川地域の下水道問題は、昨年の台風の際には誠に大変であった。格別の施策が至急要望されることでもあります。学校プール敷地問題も早期解決が望まれるものであり、公民館にしても、自治会館のみでは、住民の文化厚生活動は、充分なものが望めず、図書館との併立を目指しての用地の売却は、急を要する時期であります。

以上のように、山積する案件の処理に、役員は勿論、会員の方も意を一つにして、互いに知恵を出し合って、頑張る一年であると痛感させられました。

亀井隆義顧問から、役員の方につき感謝の言葉があり、熊澤品顧問共々、香川のために、自治会のお役に立つよう一層の努力を尽したいとの発言がありました。

出席された来賓の方々から、香川の青少年育成の問題点、住民としてのマナーの問題などの話のあと、会員と役員との意見の広聴の場が少ない点に話は移り、現在の四町内の分割案に話は進んだ。

町内会の活動の活発化は昨年から逐次進められておりますが、一層の活動が要求されておりました。広範囲にわたる町内会、相模線により分断されている町内会などあり、意志疎通が阻害されている点も多少ある点、以上は今後の自治会役員会で検討されることとして、話は今後にゆずられました。

以上



# 夜間防災訓練に参加して

PTA会長 岩本 マチ子

十一月九日、夕刻実施されました香川地区夜間防災訓練に参加をさせていただきました。当日はお昼頃より雨が降り初め、気温も下り冷え込んだ天候でありましたが第三町内会では香川駅に集合、雨具に身をかけたため役員の方々の誘導で、一本のロープを手に握り、一列で夜道を、黙々と青少年広場へ向いました。雨が段々とげしくなり横なぐりの雨が対策本部のライトに照らし出されてきました。第三町内会では広場に一番に到着し、各町内の方々が集まり終るまで、冷たい雨の中で身をふるわせながらも、子供も、大人も不満を言わず、じつと待つ姿に私は心打たれました。訓練だから冷静に行動ができたのでしょうか。



雨にも負けず夜の防災避難訓練

た行動が取れる訓練をしたのではないかと思えます。災害は時や、天候を選びません。いついかなる時にふりかかってくるかも知れないことを思うとき、夜間訓練は私にとりまして大きな意義があります。まず家庭の中の貴重品を入れる大きな袋を作り、非常食の点検、飲料水の入れ替え、家庭の中でできる最低限の用意ではあります。点検できました。準備あれば憂いなし」と云われますが日頃から非常時の備えも忘れずに心がけなければと参加して思いました。



## 社会福祉協議会

社協理事

第二町内会長 高橋 猛

第三町内会長 阿諏訪 勲

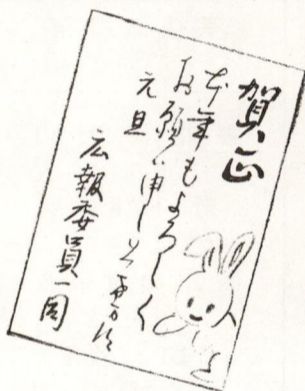
香川をはじめ六自治会による湘北地区の社会福祉協議会が七月に発足しました。このことは十月一日付けの広報紙「湘北」の創刊号で皆さんにお知らせしたところで

また、「社協」とはどのようなことをしていく団体なのかということについてもここに書かれておりますが、ここで改めてご紹介させていただきます。まずことと会則の中にあります。社会福祉の向上に努めることを目的とした事業を行っていくもので、地区社協は、行政の行なう福祉を補完するといふ位置づけで、各地域間に住む人たちが、自分たちの手で地域社会の連帯を強めて福祉を育てあげていくということにあります。

湘北地区社協が誕生して、十二月十三日に役員会を開き、今後の活動について話し合いましたが、結成間もないため、先進地区社協の活動をビデオなどで学び、具体的に福祉とは何かを勉強しました。

そして、今年度は取りあえず高齢化社会の進む中でお年寄りの身近なニーズに答えていく活動をしていくことが決まりました。

私たち役員としては、生きた福祉が地域の中に根づいていくよう努力して取りこんでまいりたいと思っております。皆様もこの趣旨に賛同されたいと思います。



# 香川小学校区は

## 地域教材の宝庫

香川小学校長 丸井 浩

本校は校内研究として二年間「地域学習を充実させるための資料収集」に取り組んでいます。

この十一月十五日(火)には、古老の方々から、生の話を聞き、地域学習の教材化をはかっていること、熊沢会長さんに講師の依頼をお願いしたところ、早速、熊沢賢三さん、池田武夫さん、柳川治郎さんが決まり、快よく教員に経緯談を語って頂きました。熊澤さんは、地域の話、池田さんは、分教場を中心とした学校の話、柳川さんは、香川小学校名にまつわる話や、農具の使い方やエピソード、三人の方の話の緒口をつけられた熊澤会長さんなど、地域に長年生きてこられた方々故、生の話の迫力が強く感ぜられ、教科書や参考書にないお話で教員はみんな目を丸くして聞き惚れていました。

柳川さんの話の中で、「わたしは子どもの頃は、肉や魚なんて自由に食べられなかった、というのは貧乏だったんだな、鶏を飼っていても、病気がないと卵なんかお目にかかれなかったな。そうそう、大失敗をしたのを思い出したよ、鶏は放し飼いだから、夜には家へ帰ってくる、家の入口の上に籠があつてな、鶏は六尺位飛び上って寝るんだ。或る時、私は卵を取ろうとし

て、踏台をしてそっと手を入れたんだ、そうしたら青大将をつかんじやつて、おつたまげたよ。」とのことでした。

校内研究会に、地域の古老の方々をお招きして本当に良かったという感触を、参加者全員が持ちました。地域を教えるのでなく、地域に教えられた場合の生の資料の教材化という事で、大きなプラスとなつた事を厚く御礼申しあげます。

昨年地域の方々のご厚意で古い民具や農具を寄贈していただきましたが、どの様に扱ったか、またどんな苦労があったのかなど、書き留めて、子供達の勉強上の手掛りになるよう、今拍車をかけているところです。古老の方々との話し合いは、今後も続けて行く所存ですので、どうか今後共よろしくお願い申しあげます。



俳句

## 茅花会

碓 百合子

猫が鈴鳴らして通る万年青の実  
初霜や鳥鏡り合える鉢の水

香沢 みや

爪立ちて結ぶ初みくじ梅が枝に  
同郷の帚売り来る花八つ手

長島 久江

正月の仲見世に立つ修業僧  
釣りの人の会話に手振り浜焚火

熊澤 幸一

瘦杭に帽子のかけり冬の川  
干蒲団に埋れて猫の耳動く

藤井 球子

ふり返りふり返りゆく冬帽子  
おほかたは素通り師走の骨董屋

平塚 司郎

冬麗のコップの水に及びけり  
風花やいよいよ尖る杉林

## 計 報

61年	11月16日	第一町内会	20組
		小林 恒子殿	64才
	11月17日	第四町内会	48組
		古知屋サト殿	84才
	11月23日	第四町内会	22-2組
		堀川 英殿	70才
	12月5日	第一町内会	19組
		島田 誠殿	43才

謹んでお悔み申し上げます。

